

世界で最大、最高の「カップピア高崎どろんこの森」

—こどもフィールド・ミュージアム—設立に向けて

NPO時をつむぐ会

はじめに

今、この企画書を読んでもくださる皆様は、子どものころ、いつもどんな遊びをしましたか。また、どんなところで遊びましたか。

最近、子どもの遊ぶ姿を見ることがめっきり減りました。

道路で遊ぶには車が危ない。池や川や用水路など、水のそばは危険。原っぱや林など人があまりいないところでは思わぬ事故にあうから禁止。

そういった理由もあって家の中での一人遊びをする子どもが増えています。

しかし、絵本を読んでやったり、相手にしたりするのは面倒くさいし、子どもに家の中で動き回られるのもうるさい。テレビやビデオ、ファミコンなどに向かっていると子どもは静かで安全だからと、いわば機器に子守をさせているという保護者も増えています。

あるいは小さいときからの塾や習い事のため、遊ぶ時間がない子どももいます。今の子どもたちは、遊ぶための空間も時間もないと指摘する人もいます。

- ★ 子どもにとっては遊ぶのが仕事です。赤ちゃんのときから遊ぶことによって子どもは成長するといっても言い過ぎではありません。
- ★ 子どもは家族以外の他者と遊ぶことによって、はじめて社会と接し、社会性やルールを身につけます。
- ★ 体を使うすべての遊びは、子どもの成長とバランスの取れた運動能力に不可欠です。
- ★ 草花遊びや虫探しなど自然の中での遊びは、子どもたちが本来持っている知りたがり屋で、好奇心いっぱい、何でもやりたがる気持ちを満足させます。

それは、子ども自身が自立するための第一歩といえます。



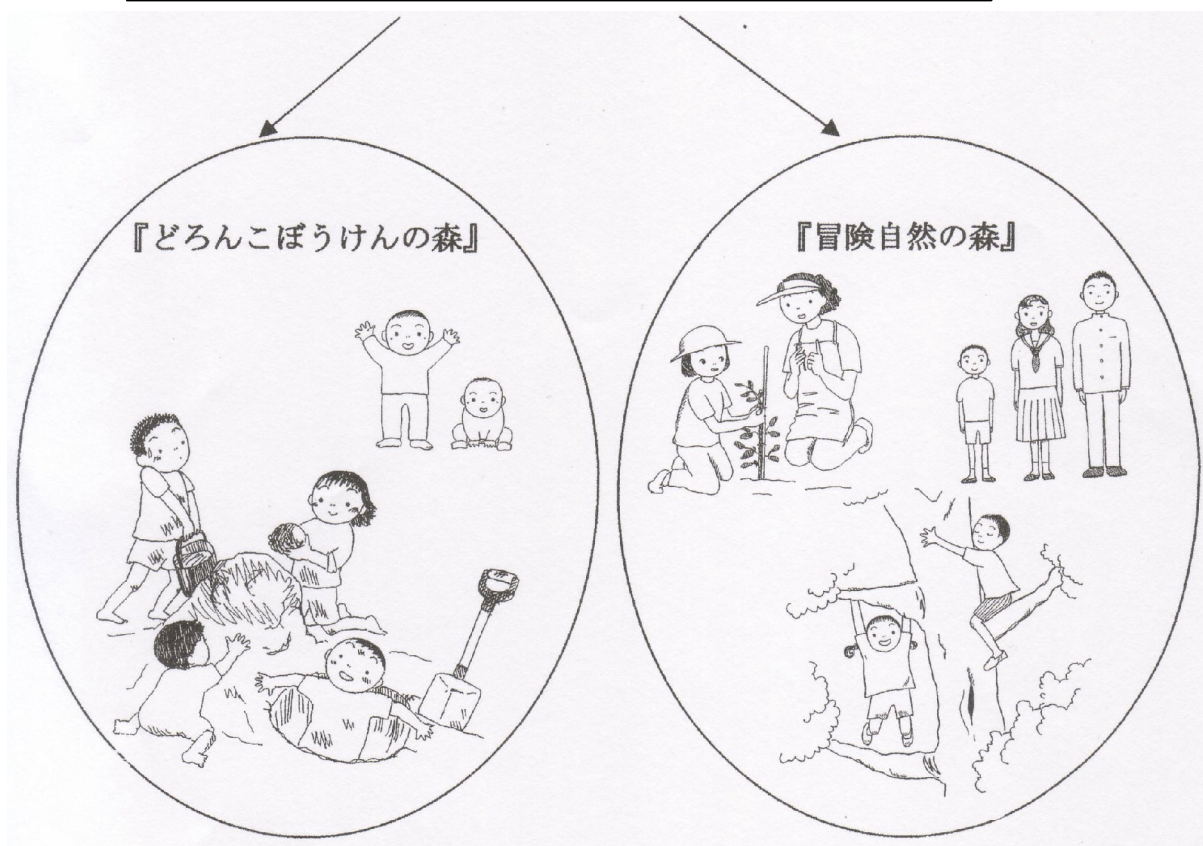
私たち、時をつむぐ会は、絵本原画展の開催、子育て支援（ぴよぴよの会）各種勉強会などを通して、たくさん子どもたちと出会い、また、保護者、園や学校の先生、図書館司書の方々など、子どもたちの成長を見つめ、子どもの現状に関心のある多くの方々と接してきました。

時には保護者の方々の、子育ての悩みや相談事などについても話し合い、高崎市民として微力ながら子どもたちの健やかな成長を願い、熱意を持って活動してきたと自負しています。

カップピアが閉鎖されたと知った時3年前からそして、今回カップピアを高崎市が買収したということを知ったとき、私たちの長年の活動の勘として、カップピアを新たな構想で再

建すれば、子どもたちが全身で自由に動き回り、遊び、感じ、楽しめる空間ができるのではないか、何より子どもたち自身が何度も行きたがり、行くのが待ち遠しくなるような施設ができるのではないかと考えました。私たち時をつむぐ会は、カップピアの新たな再建に向けて、もう何度も会議を開き話し合ってきています。積み重ねた論議の上で、現在、最善と考えている案を以下に述べさせていただきます。

「カップピア高崎どろんこの森」
子どもフィールド・ミュージアム（野外博物館）
キーワードは【遊び】



1. 「カップピア高崎どろんこの森」は『どろんこぼうけんの森』と『冒険自然の森』の二つが合わさって成り立ちます。

ここのおもな入館対象者は子どもです。子どもにとって、最高で最良の施設ができれば、おともも楽しみに来館されると考えています。目線はあくまでも子どもに焦点を当てます。

カップピアが「高崎子ども博覧会」からはじまったとすれば、五十数年を経て「カップピア高崎どろんこの森」にいたるのは、ひとつの流れと考えられるのではないのでしょうか。

子どもを対象にした施設を考えた場合、私たちは「子ども」と一言で括れないと考えています。子どもの知的行動の発達過程を研究したピアジェを持ち出すまでもなく、私たちは体験として、子どもが9歳、10歳を境にして論理的思考が形成され、身体能力もそれを境に大きく変わることを知っています。

未就学児や小学校低学年と小学校中・高学年以上とでは、違った施設が必要と考えます。それが『どろんこぼうけんの森』と『冒険自然の森』の二つに分ける理由です。

そういったことを無視して施設を作った場合、幼児には遊べない施設になり、小学校中級以上の子どもには物足りないと感じるに違いありません。

2. 『どろんこぼうけんの森』の基本的な考え

この森は、赤ちゃんから就園前のこども達と親、初めて子どもを持った親が大自然の中で子育ての第一歩を楽しむ子育て支援の場、小学生2年生までを対象にした、子どもたちにとって、役に立つ、ためになるといった森ではなく、子どもたち自身がたくさんの遊びを創造できる森です。小学校3年生以上は原則的には入場禁止です。

- ★ 基本的にやってはいけない約束事はありません。道を外れて森に入ってもいいし、池で遊んでもいいし、魚や虫や植物をとっても叱られることはありません。一日中アリを追いかけても、木登りをしても、着ているものをどろんこにしても、叱られません。叱るようなお母さんやお父さんは退場してもらいます。ただし、遊びのリーダーの注意は聞かなくてはなりません。それを無視すると子どもたちが退場になります。
- ★ 遊びたくない子どもは来ても楽しくありません。また、お母さんやお父さん、先生と一緒になければ遊べない子どもは楽しく遊べないでしょう。思いっきり駆け回ってください。
- ★ 雨の日や遊ぶのに疲れたときには、小屋にたくさんの絵本をはじめ、紙や粘土やクレヨンがあります。絵本を読んでもらうこともできます。
- ★ この森に遊びに来るときは、必ず着替えを用意してください。
※ 「どろんこぼうけんの森」に併設して、看護師の常駐する拠点型子育て支援の施設を設置し、集会室、展示室、会議室、保育室、シャワー室などを整備すれば、年間を通して、天候にかかわらず、親子でより充実した時間を過ごすことができると考えます。



3. 『冒険自然の森』の基本的な考え

『どろんこぼうけんの森』には、原則として小学校中学年以上は入れませんが、『冒険自然の森』には未就学児はもとより、おとなももちろん入場ができます。

ここも『どろんこぼうけんの森』と同じく、野外での遊びに対しては、基本的にやってはいけない約束事はありません。

海外にも野外博物館と名付けられているところがありますが、そのほとんどが犬山にある明治村のように、古い建物を移築した施設か歴史のある建造物を中心にした施設です。

私たちの考える「カッパピア高崎どろんこの森」は、そういった野外博物館とは違った、観音山丘陵のすばらしい自然を取り入れた、世界に類を見ないフィールド・ミュージアムです。

『冒険自然の森』は、さらにいくつかの森に分かれます。

「冒険の森」



うっそうとした森を探検したり、キャンプの仕方、火の起こし方、かまどの作り方、魚の捕り方、薬草や食べられるきのこ、危険への対応などを教えてもらったりできます。



「自然の森」



野鳥の観察、虫の採集、植物の見分け方をはじめ、波の出るプールの場所にできる、人工では世界最大のビオトープでさまざまな生き物を観察したり、流れるプールを利用した川の上流から下流までの生き物の違いを見たりすることができます。また、屋内展示場では、地球の環境、高崎市のごみや環境の問題、「森」に生きるさまざまな生物が紹介されます。



「遊びの森」

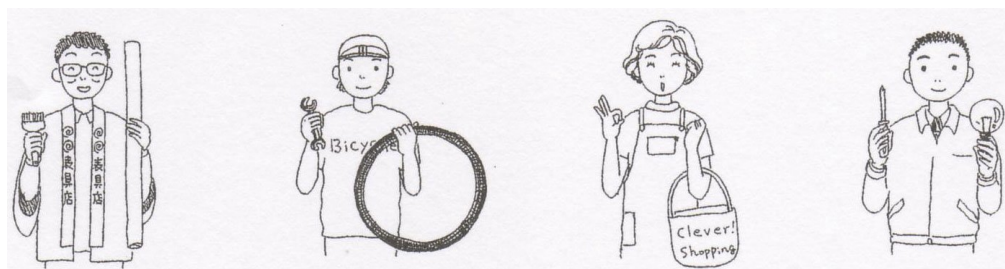


水、光、ひも、紙、ダンボール、磁石を使った遊びや、昔の遊びも教えてもらえます。

「**工作の森**」 本職の大工さんから、のこぎり、かなづち、かんなの使い方を教わったり、竹を使った遊び道具を作ったりできます。また、お父さんの協力でツリーハウスや小屋作り、池作りをします。



「**生活の森**」 料理の基本をはじめ、障子の張り方、パンクの修理の仕方、賢い買い物の仕方、電気の修理などを、専門の人から教わります。



「**研究の森**」 興味あること、不思議だと思えることを調べることができます。理科の実験もやります。

「**飼育と栽培の森**」 生き物の飼育の仕方、植物の育て方の基本を知ることができ、また、実際に飼育や栽培をします。



※ 『どろんこぼうけんの森』・『冒険自然の森』どちらにも、広い原っぱと池（水場）が必要だと考えます。

4. 実施体制・支援体制

思い付くままにさまざまな「森」を記述しましたが、私たちの考える森を運営するためにはたくさんのボランティアの協力が必要になります。

行政の側だけではこのような森を運営することはできませんし、管理するという発想でも、この森は運営できないと考えます。

一般の人の協力をどのように取り込んでいけるか、また、参加していただけるかを考えることが、「カップピア高崎どろんこの森」が成立し、成功するためのキーポイントになると考えます。

ボランティアが行なう活動は、自発的に、他者や社会のために、金銭的な利益を第一に求めない活動であり、無理をしないのできる範囲であるというのが特徴だと思います。しかし、永続的にこの施設を運営するためには、金銭的な利益を第一に求めない活動＝無償とはせず、何らかの形で有償にすべきだと考えます。

基本構想案をまとめた段階で、園や学校の先生をはじめ、保護者や子どもに関心のあるすべての方、自然保護団体や各サークルに呼びかけ、論議を公開しながら構想を固めていくべきだと考えます。

また、高崎市すべての園児や児童、生徒が、年に最低2回は園外保育や課外授業で訪れ、必要とされる場所にできたら素敵だと思います。

遊びの環境

自然だけではなくアート＝遊具となるようなものを、若い学生や芸術家、もの作りをしたい人が集まり、作り上げていきたいと考えています。(アートなのだけれど子ども達が、おもいっきり遊べる遊具を提案していきたい。)

5. 現在ある施設の再利用について

私たちが考える『どろんこぼうけんの森』の場所は、入り口の左側、ゴーカート場や豆自動車があったところです。

素人考えながら、スナックを売る売店を取り除き、いくつかの有料だった遊戯施設を撤去して整地すれば、それで開園できると思いますし、食堂だった3棟も集会室、展示室、会議室、保育室などにそのまま転用できると考えています。

我々の人脈・実行力を駆使し、すぐにでもこれらは実現できます。

